

福井大学における 地元企業就職への取組

平成26年8月26日

福井大学理事（教育・学生担当）副学長
寺岡 英男

創造力、実践力。



国立大学法人

福井大学

I 福井大学の就職状況 (1)

<学部構成・学生数> (学生数：5,068名) *2014年5月1日現在

学部(4,133名)

教育地域科学部(710名)、医学部(932名)、工学部(2,491名)

大学院(935名)

複数学部を有する国立大学で

7年連続全国1位

全国大学就職率ランキング(卒業生1,000人以上)

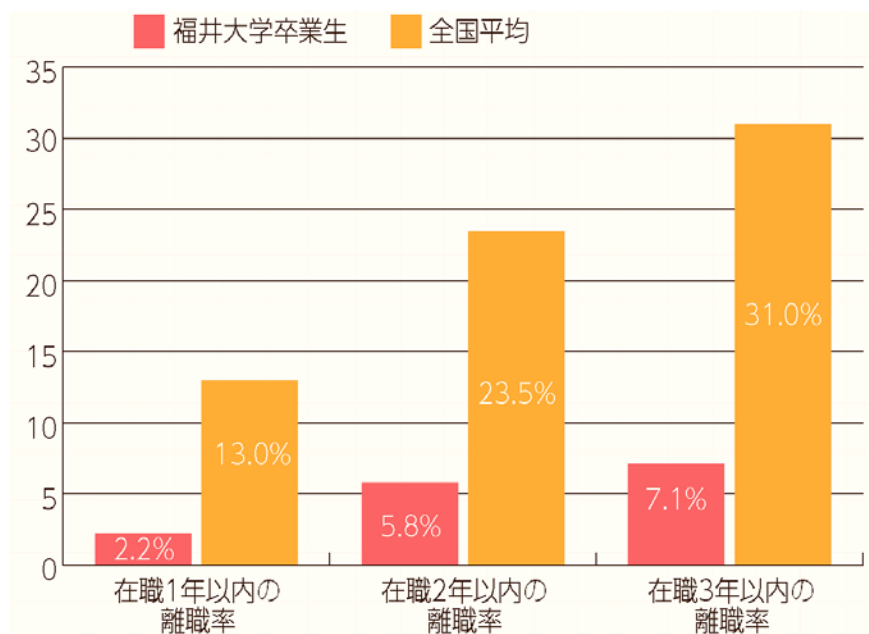
年度	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2013	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2012	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2011	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2010	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2009	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2008	福井大	97.2	長岡技科大	95.9	九州工大	95.8
2007	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋技科大	91.9

大学通信調査：就職率=就職者数÷(卒業生-進学者数)

福井大学卒業生の

きわめて低い離職率

全国平均との比較



福井大学データ：2010～2012年度を採用した企業等1044事業所にアンケート調査を行い、266事業所から回答／全国平均値：厚生労働省HP「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」

読書新聞

2014年(平成26年)2月15日(土曜日)第32面

福井大 独自の企業研究本

OBコメント添え「B to B」業務詳細に
県内外の320社

複数の学部がある国立大では就職率が6年連続で全国1位の福井大は、県内外の企業320社を紹介する学生向けの企業研究本を発刊した。こうした本を大学がまとめるのは珍しいという。同大は1000部を2014年度に卒業を予定する就職希望者に配布する。

同大の12年度の就職率は95.8%。就職支援室などで、情報提供や相談の受け付けを行ってきたが、消費者との接点が少ない「B to B(企業間取引)企業」の業務内容をより詳しく学生に知ってもらおうと企画した。

本には県内や首都圏だけでなく、中京圏の企業も多数掲載した。業務内容や企業理念、採用人数とともに福井大OBからのコメントも添えている。

同大は「就職活動の基本は各企業を訪問して話を聞くことが、間口を広めるためにも利用してもらいたい」としている。



福井大が発刊した企業研究本

THE YOMIURI SHIMBUN

読書新聞

2014年(平成26年)1月14日(火曜日)第1面

編集手帳

就職戦線は「氷河期」を脱したが、依然として厳しい。目を引くのは福井大学の健闘ぶりだ。民間調査による昨春の就職率は95.8%で、全国平均の79.6%を大きく上回る。複数の学部を持つ国立大では6年連続1位という◆「最後まで絶対に諦めない。OBにも助けられながら、企業と学生の『縁結び』を愚直に繰り返してきただけです」と大橋祐之就職支援室長は語る◆年間40回のガイダンス、210社もの個別企業説明会を開く。欠席者には動画をスマホに送る。履歴書の添削、模

擬面接など、労を惜しまない、きめ細かな支援が売り物だ。卒業後3年以内の離職率は全国平均30%に対し福井大は8%。就職のミスマッチも少ない◆最近の学生の二極化が指摘される。積極的に就職活動する人と、希望職種も定まらず、そもそも就活に動き出せない人だ。いかに後者を就職支援室まで足を運ばせるかが悩みと聞く◆大学は社会に出る前の「最後の砦」だ。みんな就活を通じて成長する。勇気と希望を胸に、関門を突破してほしい。応援してくれた周囲への感謝も忘れずに。それもまた、社会人への一歩だから。

2014. 1. 14

福井新聞

中小企業の魅力PR 福井



県内中小企業の経営者らが自社の魅力を伝えた大学生との交流会「福井市のヒラケン」

県内経営者ら 福井大生と交流
県内中小企業団体青年中央会(含)青年中央会 企業に理解を深めた。
は27日、会員企業経営者の「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」の一環として初めて企画した。同青年中央会の9人見学や懇談を通じ、地場と、同大の2、3年生8

人が参加した。会員企業3社の生産現場などを訪れ、技術やサービスを学んだ後に懇談。飲食店経営「リケン(福井市)の中山浩成常務は「ウェブの発達などで全世界とやり合える環境が中小企業に整ってきたと解説。中小企業から新しい大企業が生まれる局面に入っていると強調した。」

3テーブルに分かれた懇談では、学生が「起業したきっかけは」「何年で一人前になってほしい」と思っているか、などと質問した。経営者は「学生時代のアルバイトは一番の社会勉強」「中小企業は社員が少ない分、入社後の体調管理が特に大事」などと語った。

Ⅲ 福井大学における地元企業就職への取組 (1)

強
み

○福井県出身者の高い地元就職率

教育地域科学部：93%、医学部：78%、工学部：77%（平成25年度卒業生）

○地域を支える優れた人材の輩出

福井県の教員41%、福井県の医師29%、福井県のエンジニア40%

○高い就職率（96.7%）と低い離職率（7.1%）

大学通信調査「全国大学就職率ランキング」複数学部を有する国立大学で就職率7年連続1位（2007～2013年度）

福
井
大
学
の
取
組

1. 地元企業の魅力紹介

- ・福井県内企業見学バスツアーの実施（6社）
- ・個別企業説明会実施（H25年県内企業45社延331名参加）
- ・合同企業説明会実施（県内企業59社）
- ・就職支援室に地元金融機関出身者配置（地元企業とのパイプ役）



バスツアーによる地元企業訪問

2. 中小企業の魅力紹介

- ・福井県中小企業団体中央会との連携
- ・商工会議所と連携による企業説明会
- ・企業訪問による人材ニーズ発掘



地元中小企業との
ファクトリーツアー&交流会

3. 地域とのネットワーク構築

- ・福井県産業界や地域と密着した人間力育成事業の実施（教育地域科学部：探究ネットワーク、地域課題ワークショップ）
- ・産学官連携本部協力会企業（県内企業177社）との連携（会員企業による合同企業説明会/県内企業68社参加）
- ・福井県経営者協会がマッチングするインターシップ（県内企業に81名エントリー）
- ・ハローワーク、ジョブカフェとの連携
- ・福井県との連携（“福井県モノづくり企業”見学バスツアー、ふくい雇用セミナーに参加）

IV 福井大学における地元企業就職への取組 (2)

成功のポイント

- 地元での就職希望者に対しては、合同企業説明会や個別企業説明会により地元企業とのより多くの出会いの場を提供し、ミスマッチを防ぐきめ細かい支援を行うことによりほぼ100%地元企業に就職している。
- 地域課題ワークショップ等の授業を通じ、地域産業界が必要とする資質の強化、社会人基礎力の育成を図っている（産業界ニーズGP）。
- 就職支援室と教員（教育・共同研究を通じ）が協働して、就職支援及び企業から評価される人材の育成に努めている。
- 地元企業のOB OGと直接触れ合う機会や現場見学をより多く設定して、実体験による地元企業の本質的な魅力を伝えている。
- 地元中小企業の社長等を授業や交流会講師として直接話を聞く機会を多く設定し、学生と社風（≡社長の性格）とのマッチングに努めている。

【背景】福井県の強み

⇒ 住みやすい環境（幸福度ランキング日本一）

⇒ 女性の働きやすい環境

共働き率：56.8%（全国1位/H23年）／三世帯同居率：17.6%（全国2位/H22年）

⇒ 福井県は中小企業が多く、産学連携が活発（人口10万人当たりの社長輩出数日本一）

(参考1) 福井大学における産学連携の取組

地域産業界の技術と人を結ぶ産学連携活動

福井大学産学官連携本部協力会

福井経済同友会(事務局)の全面サポート

200社を超える会員企業(内福井県内企業177社)

10の研究部会

地域産業技術の
高度化に!

信頼感抜群の
人材育成

情報共有

就職支援

技術相談

大型プロジェクト

金属光造形複合加工機 (金属材料3Dプリンタ)

【地域結集事業成果】

金型の常識が変わる!



受賞!

第33回日本産業技術大賞・文部科学大臣賞
第2回ものづくり日本大賞・経済産業大臣賞



人は財産 地域企業で活躍する卒業生

導電性微粒子の製造方法の発明
(特許第3871653号)

福井大学創立110周年記念式典
平成26年度 全国発明表彰式



清川メッキ工業株式会社
代表取締役社長 清川 肇 氏
技術部 主任 福岡 清人 氏

本学の卒業生!

受賞!

平成26年度 全国発明表彰(発明賞)

(参考2) 地方創生に向けて地方大学が果たしうる貢献

課題

大学進学時における若者人口の流出

▶ 大学進学者の地元大学への進学意欲を高めるためには

地方大学が若者を惹き付ける魅力ある存在となる

課題

就職時における若者人口の流出

▶ 大学生の地元への就職意欲を高めるためには

地元産業と連携した教育や就職支援を充実する

課題

学生が希望する地元企業をいかに増やすか

▶ 地方に大学生が求める雇用を創出するためには

地方経済の活性化

イノベーション創出や人材育成により地方経済を支える